

令和5年度（2023年）

中央区まちづくり ビジョンの検証



中央区役所総務企画課

目次

1 中央区の概要

2 まちづくりビジョン策定の経緯と検証の目的

3 まちづくりビジョンの概要

4 検証の手法

5 まちづくり推進事業等の振り返り

6 区民アンケート結果

7 まちづくりワークショップ結果

8 有識者インタビュー結果

9 総括

1 中央区の概要

校区の位置



人口・世帯数

	面積 (km ²)	平成22年国勢調査		平成27年国勢調査		令和2年国勢調査	
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
中央区	25.45	184,353	92,242	186,300	95,754	187,502	99,897
東 区	50.19	188,082	74,942	190,451	78,406	189,524	80,454
西 区	89.33	93,805	37,610	93,171	38,944	91,177	39,781
南 区	110.01	122,600	43,499	127,769	47,144	130,829	49,967
北 区	115.34	145,634	54,120	143,131	55,208	139,833	56,821
熊本市	390.32	734,474	302,413	740,822	315,456	738,865	326,920

面 積:25.45km²
人 口:187,502人

校区数:19校区
世帯数:99,897世帯

(令和2年(2020年)10月1日現在)

<概要>

人口密度が最も高く都市機能集積が進んでいる市中央部のエリアで、県内一の中心商店街が広がるとともに城下町風情も残っており、新旧の調和が保たれています。行政機関や企業の本店も多く、交通網の拠点として熊本桜町バスターミナルからは放射線状にバス網が張り巡らされています。

また、区内を白川と坪井川が縦断し、中心部の熊本城一帯や北部の立田山の豊かな緑、南東部の水前寺成趣園や江津湖等の湧水など自然にも恵まれています。

単身世帯比率

令和3年4月	中央区	53.8%
	熊本市	43.2%

2 まちづくりビジョン策定の経緯と検証の目的

策定の経緯

- ・平成24年（2012年）4月 政令指定都市移行
熊本市に5つの区（中央・東・西・南・北）を設置
- ・平成25年（2013年）3月 中央区まちづくりビジョンの策定
政令指定都市移行後の区の魅力・特性を生かした協働で進めるまちづくりの方向性を示すものとして、「中央区まちづくりビジョン」を策定。
めざす区の姿を「新たな出会いと未来創造の都会（まち）～つながる、中央区。～」とし、その実現に向けた目標年次を10年後の令和4年度（2022年度）に定める。

検証の目的

平成25年（2013年）3月の現行ビジョンの策定から10年が経過することから、まちづくりの方向性ごとにこれまでの取組み、実績等を整理し、まちづくりの専門家、ワークショップ等において総合的な評価及び検討課題等の抽出を行い、今後のまちづくりに反映していくことを目的とする。

この検証による成果をもとに、中央区の魅力・特性を最大限に生かし、地域が抱える様々な課題解決に取り組み、持続可能なまちづくりの実現に向け、行政と区民が協働による、だれもがいきいきと暮らせる中央区を目指す。

3 まちづくりビジョンの概要

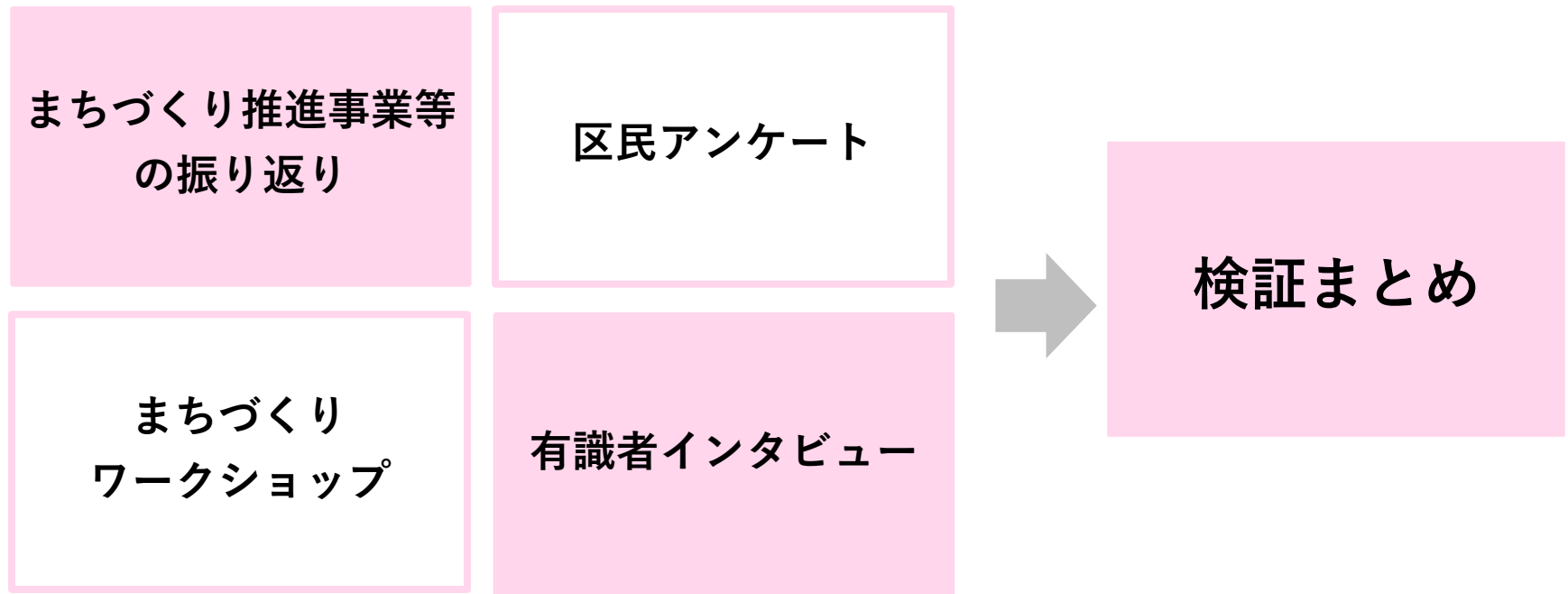
まち 新たな出会いと未来創造の都会 ～つながる、中央区。～

	まちづくりの方向性	主な取組の視点
方向性 1	“きらり”とひかる 品格ただよまちをつくる	●身近なまちの歴史や自然、文化を学び、育む機会の充実 ●熊本城をシンボルとした城下町の風情の保全と創造 ●おもてなしの心、笑顔にあふれたまちづくり ●「花いっぱい」など清潔で美しい生活環境づくり
方向性 2	“わくわく”があふれる 活力と賑わいのあるまちをつくる	●歩きたくなる中心市街地の魅力の向上と発信 ●身近な商店街の利用の増加と魅力向上 ●地域のニーズを踏まえた水前寺商店の照明灯復旧 ●若者や女性など多様な人材が活躍できる環境づくり ●文化・芸術あふれるまちの魅力向上
方向性 3	“ほっと”できる 安全で安心なまちをつくる	●挨拶や行事参加をとおした区民のつながりづくり ●地域での防災訓練の実施やハザードマップ作成の推進 ●地域や学校、警察などの関係機関の連携強化 ●登下校時の見守りなど通学路の安全確保
方向性 4	“いきいき”と暮らせる 健やかなまちをつくる	●高齢者を孤立させない仕組みづくり ●子育て支援や悩みを相談できる交流の場づくり ●障がいのある人が自らの能力を発揮できる場づくり ●生活習慣病予防などの校区で取り組む健康づくり

4 検証の手法

ビジョン策定から10年が経過し、中央区のこれまでのまちづくりを振り返り、これからの課題や重点的に取り組むべきことを抽出することで、今後の中央区の新たなまちづくりに生かす。
これまでの区のまちづくり推進事業等の成果とともに、区民アンケート、ワークショップ、有識者インタビュー等により、現在のまちづくりに関する満足度や課題を検証する。

■検証の方法



5-① まちづくり推進事業等の振り返り

方向性 1

“きらり”とひかる品格ただよまちをつくる

●校区カルタ制作事業

(H25-27)

校区の魅力や自慢を歌いこんだ「校区カルタ」の読み札・絵札の案を各校区で作成。ワークショップ、まち歩き等を通してわがまちへの愛着や誇りを育み、幅広い世代の住民の交流を促した。

※5校区で作成

(出水・帯山西・黒髪・砂取・一新)



●みんなのまちづくり情報発信事業

(H25-30)

区民のまちづくりへの関心を高めるため、区民編集員を養成講座を開催し、各校区の魅力・まちづくり活動・まちづくりに携わる人等を取り上げた情報誌「中央区つながるマガジン“まちのわ”」を製作。

※発行部数 10,000部/回

その他、中央区への転入者に中央区の魅力や子育て情報等を伝える中央区ウェルカム冊子、中央区の魅力を発信する中央区trip等を作成。



●井手の魅力再発見事業

(H27-29)

白川や井手への関心を高め、地域のまちづくりに生かす。

「大井手の楽校」としてワークショップや勉強会、まち歩きなどを開催し、フィールドノート(冊子)としてまとめた。

その他、講演会、ピクニック、スケッチ大会等を開催。

井手の魅力を発見し、多くの方に知ってもらう機会となった。

※大井手の楽校 参加者70名

スケッチ大会 参加者47名



●中央区地域コミュニティづくり支援補助金

(H25～)

地域住民の主体的な地域課題の解決や地域コミュニティの活性化への取組みを支援。中央区が目指す「自主自立のまちづくり」に寄与する先進的、模範的事業に取り組む団体の挑戦を支援する「地域魅力アップモデル事業」と地域住民が主体的かつ継続的に行う、地域課題解決のための取組みを支援する「地域課題対応事業」とがある。



「向山校区GREEN PROJECT」

産業道路沿いの緑化活動、清掃活動等を支援。小中学校、老人会等幅広い世代を巻き込んだの活動で地域への愛着を高めた。

●新町古町地区の城下町 町並みづくり助成事業

城下町の風情を感じられる町並みづくりを進めるため、ガイドラインの策定を行い、平成24年度(2012年度)から新町・古町地区内において、外観の修景の経費に対し、助成事業を開始。

代表的な通りでは、新町・古町地区住民に町並み協定を締結し、モデル街区として認定している。

※都市デザイン課所管事業

まちづくりセンターが地域への広報、相談対応等を行っている。



5－② まちづくり推進事業等の振り返り

方向性 2

“わくわく”があふれる活力と賑わいのあるまちをつくる

●地域活性化支援事業（白川夜市） （H29～）

公共空間の地域での普段使いを考えるエリアマネジメント講演会や「緑の区間」（大甲橋～明午橋間）でのマルシェの開催の実証実験を実施。平成30年（2018年）からはマルシェに参加した団体による「白川夜市」が毎月開催されるなど、民間による活用も行われている。



●花畑広場整備

歩いて楽しめる歩行者中心のまちづくりの拠点として、まちなか全体の回遊性向上を図り、熊本の新しい顔にふさわしい魅力、市民の日常的な憩い及び中心市街地のにぎわいを創出する。辛島公園及び花畑公園は、日常的に休息、散歩、運動等を行う憩いを主とする空間であるとともに、まちなかの賑わい創出にも貢献する。



※市街地整備課所管事業
土木センター維持課が工事契約等を実施

●水前寺賑わいづくり支援事業 （H26～）

「水まち水前寺～春夏秋冬～」をテーマに、熊本の財産である水前寺に光をあて、水前寺界隈の活性化に向けた地域の取り組みを支援。毎年秋に「水前寺にぎわい祭り」を戸井の外公園と水前寺成趣園参道を会場として開催。区民と行政とが協働で取り組むことで、水前寺一帯のまちの賑わいづくりの創出、湧水と歴史のまち「水前寺」の魅力向上、地域住民相互のコミュニケーションの活性化等の成果があった。
※H26来場者数 約4,800人
R4来場者数 約15,000人



●校区の魅力発見発信事業（近未来キャラバン） （H29～）

自治会や企業、店舗をこどもたちが地元プロ講師の密着講義を受けながら取材・撮影・HP作成・地域へのプレゼンを行う。子育て世代等への地域の魅力のアプローチ、自治会、商店等とこどもたちのつながり、自治会活動の地域への情報発信ツールの形成等の成果があった。
※制作したHPは、地域の方々が引き継いで活用



方向性4

“いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

●中央区地域ICT推進拠点整備事業 (くまもとデジタルサポートセンター) (R3～)

若年層から高齢者層までICTに不安を感じる幅広い年代の不安解消を図り、ICTを活用した暮らしやすいまちづくりを推進するため、行政、ICT企業3社及び学識経験者で協議会を組織し、『くまもとデジタルサポートセンター』を設立。

スマホ相談、各種講座の開催、地域団体へのWeb会議支等の出張派遣などを実施している。運営には大学生ボランティアも参画。

※利用者延べ約450人



●中央区スポーツ交流事業 (H29～)

中央区スポーツ協会と協働で、校区対抗の「グランドゴルフ大会」を実施。

11月の第1日曜日を「中央区スポーツ交流事業の日」として定着させ、区民の交流の機会をつくるとともに、心身の健康増進を図る。



※参加者数

H29	24チーム	約150名
H30	30チーム	180名
R1	29チーム	240名
R2	29チーム	174名
R3	26チーム	156名



●お互いさまのまちづくり啓発事業 (地域包括ケアシステム) (H30～)

中央区で進めている地域包括ケアシステムの構築に向け、その必要性や課題等について理解を深めるため、中央区管内のささえりあ圏域ごとに、地域の特性や実情を反映させた勉強会等啓発活動を実施し、市民、行政及び関係機関がともに考える機会とした。



●中学生と乳幼児の交流事業 (R2～)

中学生を対象に、乳幼児とその保護者及び地域役員との交流会を開催し、妊婦体験や赤ちゃん人形の抱っこ体験を通して、生命の大切さや妊娠・出産について考える機会を与えた。



●中央区地域コミュニティづくり支援補助金（再掲）

「転入したいまち、永住したいまち、私のまち、僕のまち！！」

子育て世代の転入者が地域に溶け込めるよう各種イベントの開催等の子育て支援を行う活動を支援。

※ウェルカム会等参加者数百名規模のイベントを多数開催



6-① 区民アンケート結果

問

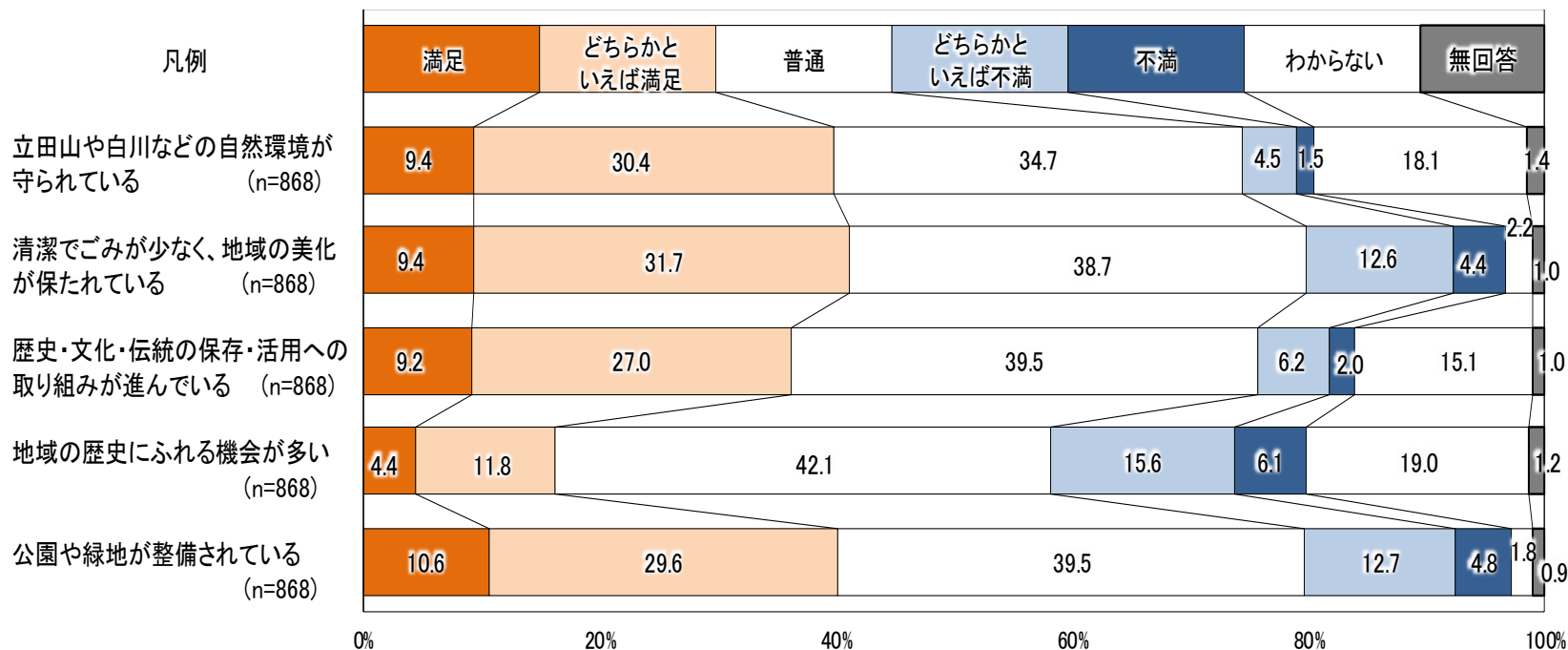
身の回りの暮らしについての「満足度」について①

方向性 1

“きらり”とひかる品格ただよまちをつくる

【景観・文化・環境】

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象



全体的に「満足」、「どちらかといえば満足」の割合が高くなっている。

- ・「清潔でゴミが少なく、地域の美化が保たれている」(41.1%)
- ・「公園や緑地が整備されている」(40.2%)
- ・「立田山や白川などの自然環境が守られている」(39.8%)

6-② 区民アンケート結果

問

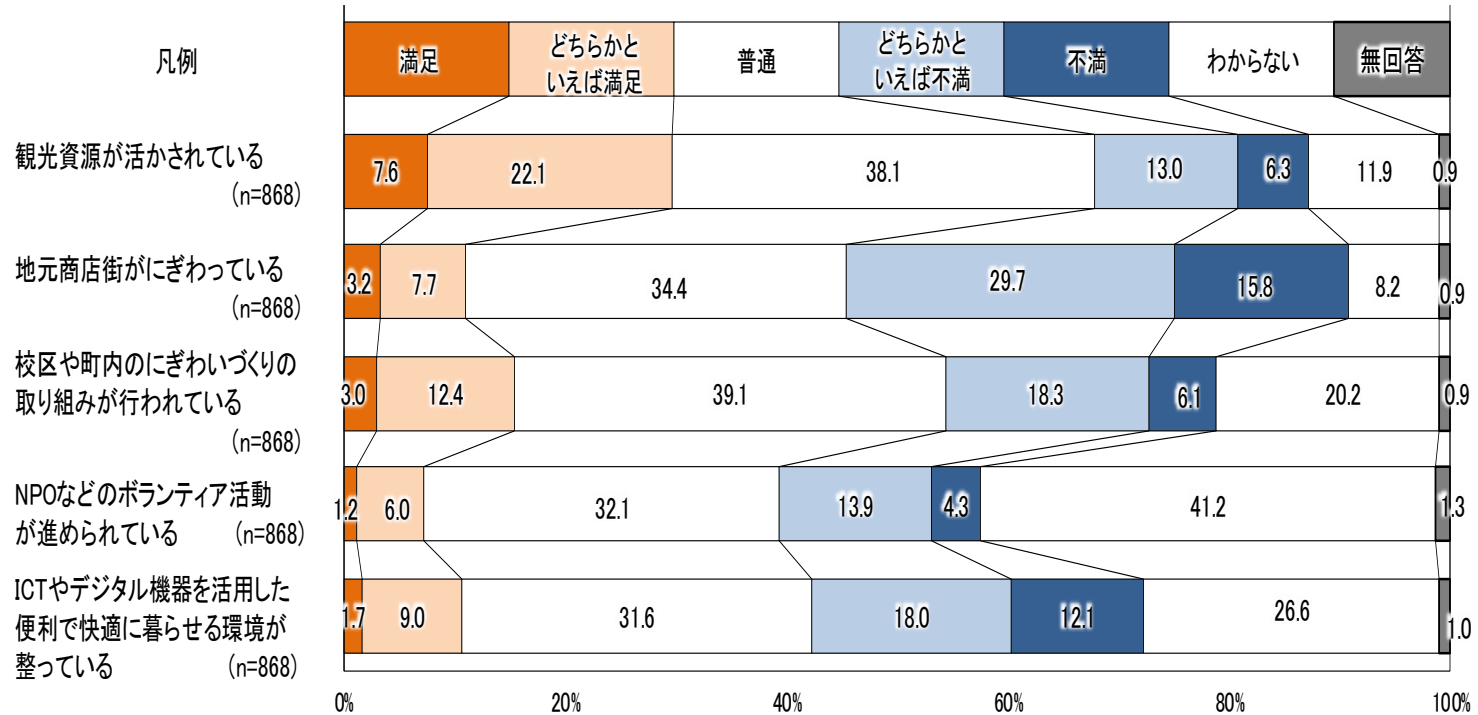
身の回りの暮らしについての「満足度」について②

方向性 2

“わくわく”があふれる活力と賑わいのあるまちをつくる

【賑わい・地域振興】

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象



「不満」、「どちらかといえば不満」の割合の高くなっている項目

- ・「地元商店街がにぎわっている」(45.5%)
- ・「ICT(情報通信技術)やデジタル機器を活用した便利で快適に暮らせる環境が整っている」(30.1%)

「わからない」の割合が高い項目

- ・NPOなどのボランティア活動が進められている。

6－③ 区民アンケート結果

問

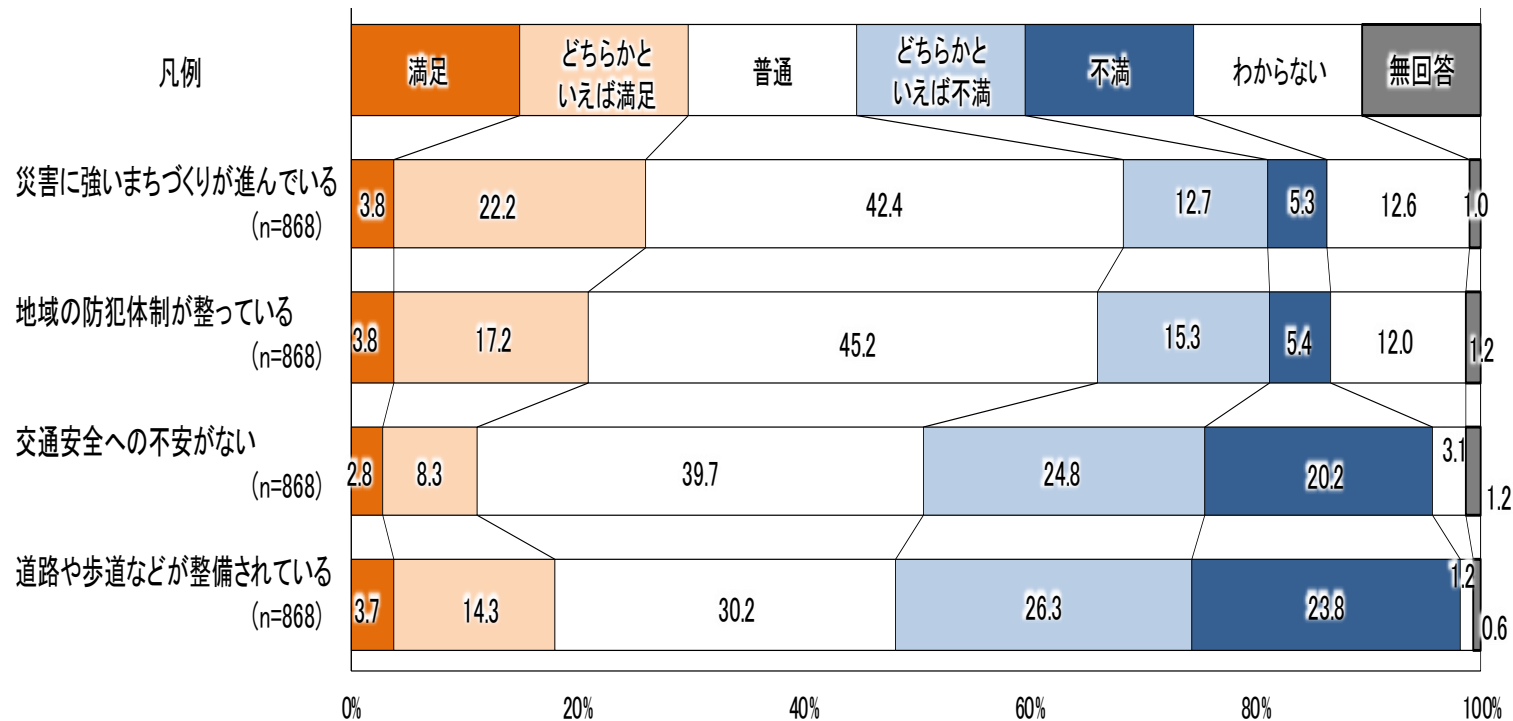
身の回りの暮らしについての「満足度」について③

方向性 3

“ほっと”できる安全で安心なまちをつくる

【安全・安心】

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象



「満足」、「どちらかといえば満足」が多くなっている項目

- ・「災害に強いまちづくりが進んでいる」(26.0%)
- ・「地域の防犯体制が整っている」(21.0%)

「不満」、「どちらかといえば不満」の割合の高くなっている項目

- ・「道路や歩道などが整備されている」(50.1%)
- ※ 自由回答も道路、交通機関、渋滞等を挙げた意見が多い。
- ・「交通安全への不安がない」(45.0%)

6-④ 区民アンケート結果

問

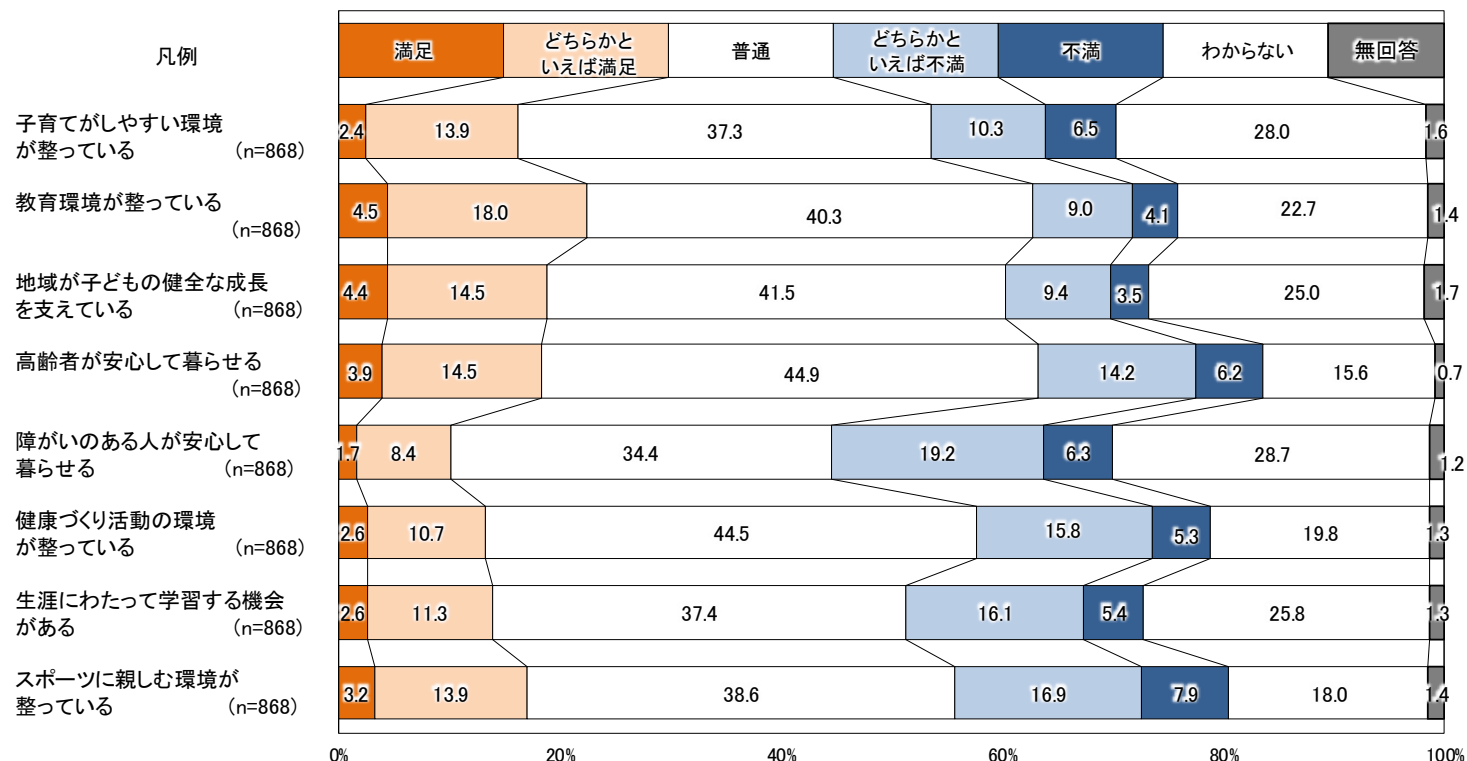
身の回りの暮らしについての「満足度」について④

方向性 4

“いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象

【福祉・健康・子育て】



「満足」、「どちらかといえば満足」が多くなっている項目
・「教育環境が整っている」(22.5%)

「不満」、「どちらかといえば不満」が多くなっている項目
・「障がいのある人が安心して暮らせる」(25.5%)
・「スポーツに親しむ環境が整っている」(24.8%)

6-⑤ 区民アンケート結果

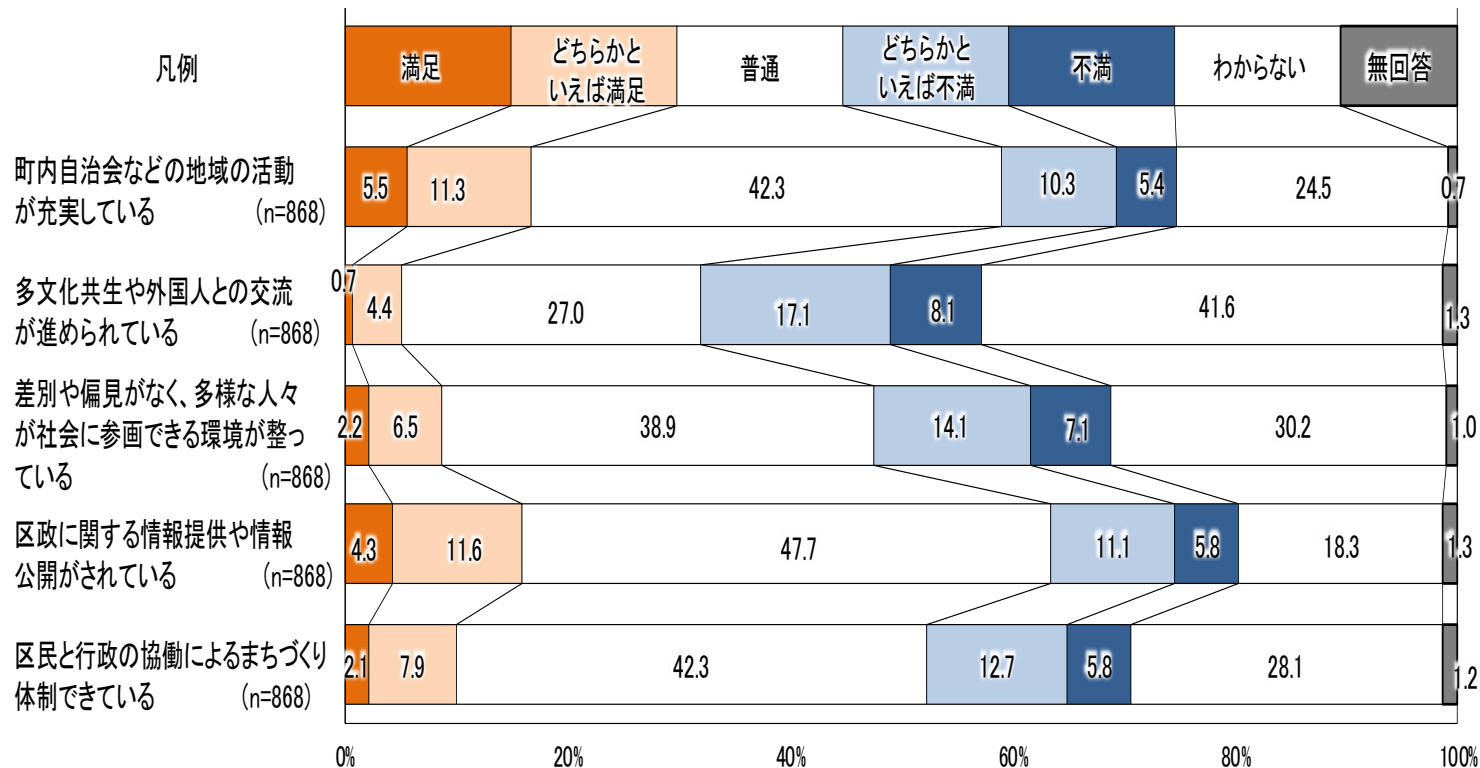
問

身の回りの暮らしについての「満足度」について⑤

まちづくりビジョンの推進体制

【区政・地域とのつながり】

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象



全体的に「わからない」が多くなっており、課題が存在していることが示唆される。

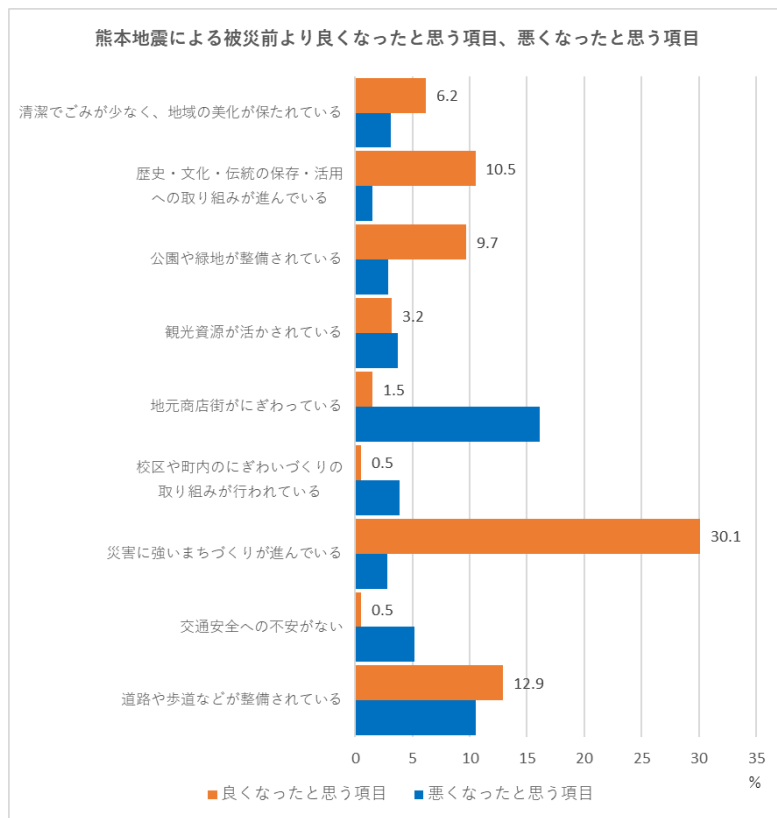
- ・「多文化共生や外国人との交流が進められている」(41.6%)
- ・「差別や偏見がなく、多様な人々が社会に参画できる環境が整っている」(30.2%)
- ・「区民と行政の協働によるまちづくり体制できている」(28.1%)

6-⑥ 区民アンケート結果

問

身の回りの暮らしについての「満足度」について⑥

【熊本地震の影響】



上位3項目

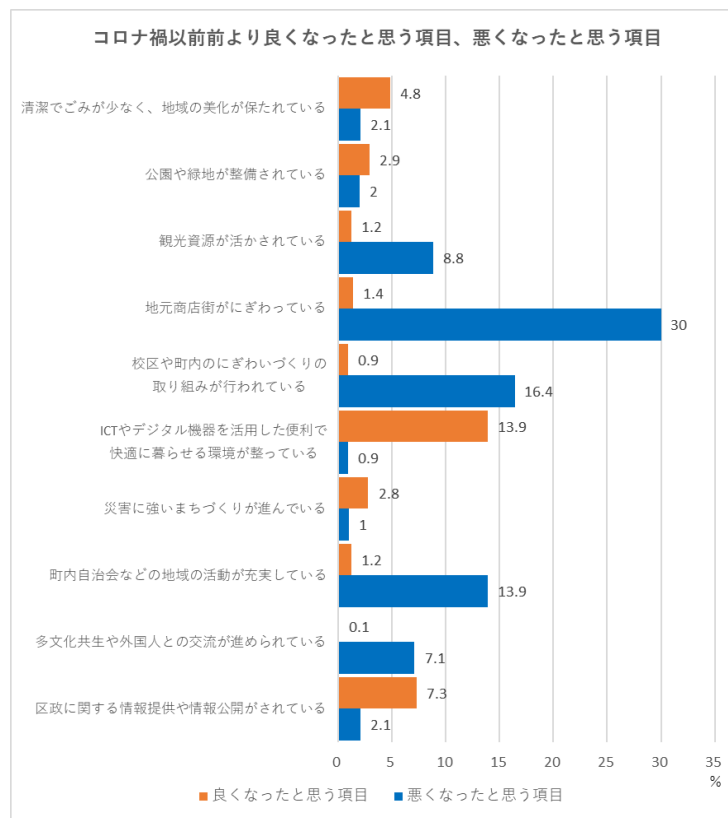
- 災害に強いまちづくりが進んでいる (30.1%)
- 道路や歩道などが整備されている (12.9%)
- 歴史・文化・伝統の保存・活用への取り組みが進んでいる (10.5%)

下位3項目

- 地元商店街がにぎわっている (16.1%)
- 道路や歩道などが整備されている (10.5%)
- 校区や町内のにぎわいづくりの取り組みが行われている (3.9%)

【コロナ禍の影響】

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象



上位3項目

- ICTやデジタル機器を活用した便利で快適に暮らせる環境が整っている (13.9%)
- 区政に関する情報提供や情報公開がされている (7.3%)
- 清潔でゴミが少なく、地域の美化が保たれている (6.2%)

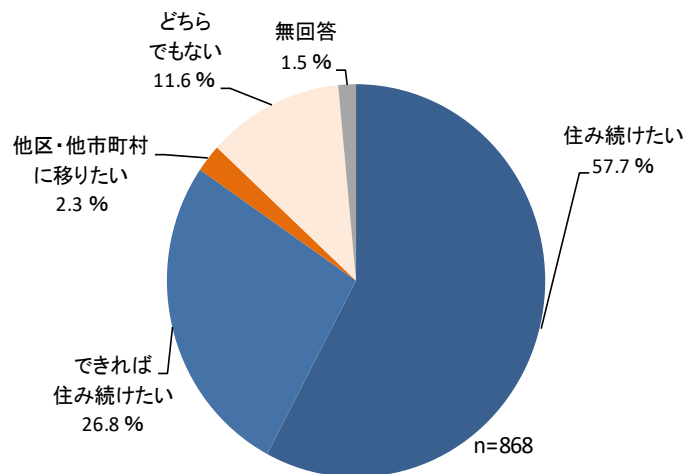
下位3項目

- 地元商店街がにぎわっている (30.0%)
- 校区や町内のにぎわいづくりの取り組みが行われている (16.4%)
- 町内自治会などの地域の活動が充実している (13.9%)

6-⑦ 区民アンケート結果

問 中央区に住み続けたいと思いますか？？

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象



理由



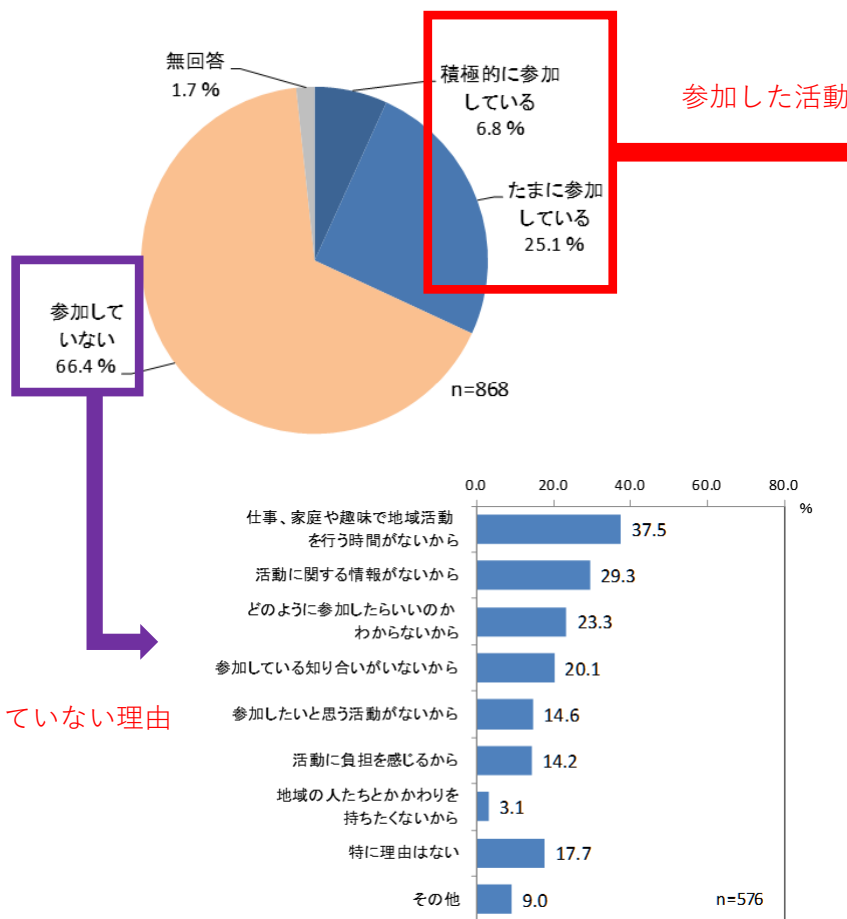
年代別にみると、年代が高くなるほど「住み続けたい」の割合が高くなる傾向が認められる。「18～29歳」では「他区・他市町村に移りたい」と「どちらでもない」の割合が他の年代と比べ高くなっている。
職業別にみると、「学生(標本数24件)」では「他区・他市町村に移りたい」と「どちらでもない」の割合が他の職業と比べ高くなっている。

6-⑧ 区民アンケート結果

問

この5年間で、地域活動に参加していますか？

過去5年間の地域活動への参加状況



令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象

6-⑨ 区民アンケート結果

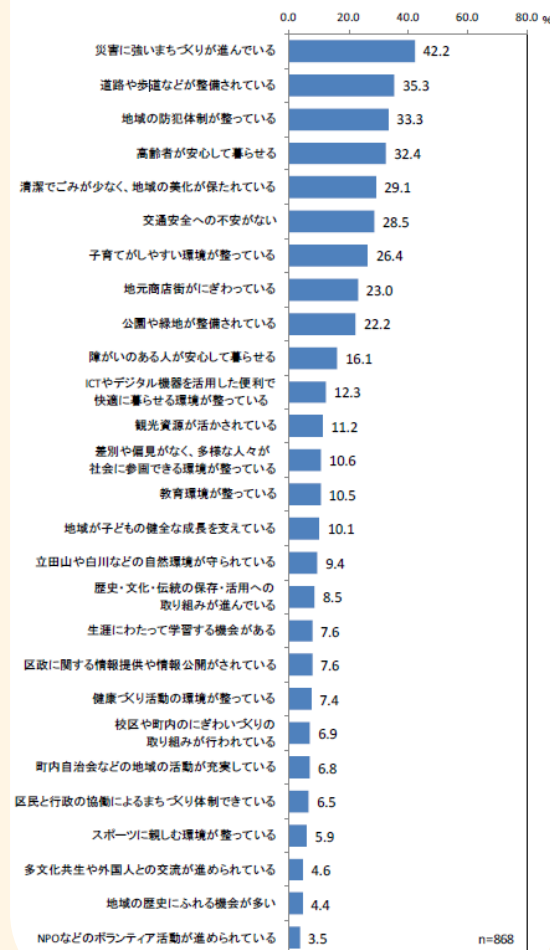
総括的分析

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区在住 満18歳以上の3,000人が対象

重点的に
取り組むべき項目



まちづくりに関する重要だと思う取組み



6－⑨ 区民アンケート結果

自治会長アンケート

令和4年8月実施 中央区まちづくりに関するアンケート結果より
※中央区の町内自治会長 234人が対象

概ね区民アンケートと同じ傾向が見られた。

両アンケートの結果に乖離が見られる項目は、次のとおり。

自治会長アンケートの方が満足の割合が高い項目

- ・交通安全への不安がない（自：35.7% 区：11.1%）【安心・安全】
- ・生涯にわたって学習する機会がある（自：35.7% 区：13.9%）
【福祉・健康・子育て】

自治会長アンケートの方が不満の割合が高い項目

- ・子育てしやすい環境が整っている（自：51.9% 区：16.8%）
【福祉・健康・子育て】
- ・高齢者が安心して暮らせる（自：40.3% 区：20.4%）【福祉・健康・子育て】
- ・多文化共生や外国人との交流が進められている（自：51.9% 区：25.2%）
【区政・地域のつながり】

熊本地震の影響

「災害に強いまちづくりが進んでいる」が最もよくなった項目とされている点は、区民アンケートと共通だが、「町内自治会など地域の活動が充実している」「区民と行政の協働によるまちづくり体制ができている」は、自治会長アンケートにおいて「よくなった」の値が多くなっており、地域担当職員、避難所担当職員の配置等の成果が見られる。

7-① まちづくりワークショップ結果

方向性 1

“きらり”とひかる品格ただよまちをつくる

【地域の魅力やつながり】

【現状・取組】

(中央区の魅力)

- ・ 自然と都市の融合
- ・ 歴史的建造物と街並み
- ・ 水がおいしい
- ・ 古い街並みの活用と古民家を活用した店舗

【課題】

- ・ 魅力が十分に発信できていない
- ・ 若者世代に向けた施策が少ない
- ・ まちづくり団体の後継者不足
- ・ 渋滞
- ・ SNSが高齢者にはわかりづらい

【これからのまちづくりに望むもの】

- ・ 地域の名所となる歴史的建造物（寺院等）と町並みの保存
- ・ 歴史的建造物、名所等のリスト化
- ・ SNS等様々な手法による地域の魅力発信
- ・ こども向けイベントを開催し、保護者世代へアプローチ
- ・ 若者が高齢者にスマホの使い方を教える場をつくる

方向性 2

“わくわく”があふれる活力と賑わいのあるまちをつくる

【賑わい・地域振興】

【現状・取組】

(中心市街地)

- ・ 新幹線開通、商業施設、ホテル等の開業
- ・ 官民連携で行うイベント（火の国祭り）（身近な地域）
- ・ イベント（校区運動会、夏祭り等）
- ・ 地域活動（廃品回収、公園清掃等）

【課題】

- ・ コロナ禍で縮小・中止したイベントの今後
- ・ 若者の中心市街地離れ
- ・ 平時の賑わい不足
- ・ ターゲット層の偏り
- ・ 交通アクセス
- ・ 高齢化による参加者減少と担い手不足

【これからのまちづくりに望むもの】

- ・ 地域全体で盛り上がるイベント
- ・ 民間と行政との協働
- ・ 歴史と文化、伝統を活用し、観光資源とする
- ・ 幅広い世代が賑わいを感じることができる

- ・ SNS等を活用した情報発信
- ・ 若者の出店、起業がしやすい環境づくり
- ・ 若者の定着



7-② まちづくりワークショップ結果

方向性3

“ほっと”できる安全で安心なまちをつくる

【地域の防犯・防災】

【現状・取組】

- ・定期的な防犯パトロールや見守りが実施されており、犯罪の抑止力となっている。
- ・自主防災クラブ、避難所運営委員会等を結成し、災害に備えている。

【課題】

- (防犯)
 - ・防犯パトロールの形骸化
 - ・防犯マップの認知不足
- (防災)
 - ・マンション管理組合と町内自治会の連携
 - ・自主防災クラブ等のメンバー集め

【これからのまちづくりに望むもの】

- ・平時からの地域交流による、人と人とのつながりづくり
- ・防犯パトロールや防犯マップなど、既存の取組みの周知
- ・町内の垣根を超えた地域の連携
- ・情報伝達媒体としてSNSを活用して幅広い世代へアプローチ



方向性4

“いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

【健康・福祉】

【現状・取組】

- ・8020運動等の健康・福祉に関する活動
- ・健康体操、太極拳等のサークル活動
- ・コロナ禍で健康への意識が向上
- ・コロナ禍で健康・福祉事業の縮小・中止

【課題】

- ・マンション等の増加による関係の希薄化
- ・マンパワー不足
- ・若い世代への情報周知が不十分で活動を知らず参加できない
- ・支援が必要な人に情報が届いていない

【これからのまちづくりに望むもの】

- ・紙・SNSを併用した、幅広い世代への情報発信及び共有
- ・高齢者向けe-スポーツなど、新たな取り組みの実施
- ・デジタル化による健康に対する意識向上
- ・公共交通機関の充実による免許返納後の高齢者の活動への参加の容易化



7-③ まちづくりワークショップ結果

方向性4

“いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

【地域での子育て】

【現状・取組】

（現状）

- ・ こどもの年齢ごとに地域との関わりの度合いが変わる（乳幼児<小中学生）

（取組）

- ・ 子育てサークル
- ・ 見守りパトロール
- ・ イベント

【課題】

- ・ 民生児童委員、PTA等の後継者不足
- ・ 子ども会、PTAの非参加者の増加
- ・ 地域イベントの参加率の低迷
- ・ コロナ禍で実施できなかったイベントの消滅

【これからのまちづくりに望むもの】

- ・ こどもの年齢に合わせた子育て支援
- ・ 参加しやすい、参加したくなるような地域行事の実施
- ・ 地域イベントを通じた連帯感の醸成
- ・ 世代を超えた交流ができる場づくり
- ・ SNS・オンラインを利用した子育て支援



今後のまちづくりに関するキーワード

つながり 多世代 SNSの活用 中心市街地 交通アクセス

集合住宅、学校、企業等が多く若者及び高齢者の単身世帯が多い中央区においては、自治会等地域活動への参加者が減少し、地域住民同士のつながりが希薄になり、担い手不足が問題になっている。

そのため、**多世代**が参加したくなるイベント等の開催を**SNSの活用**等多様な手段により周知することで、世代間のコミュニケーションを強化することが求められている。

また、中央区のまちづくりに欠かせない多くの人々が集い、つながりを生む**中心市街地**への**交通アクセス**は大きな課題である。

情報化社会の進展やコロナ禍など世界の変化を受けて、まちづくりのスタイルも変革が求められている。



8-① 有識者インタビュー結果

■ インタビューを行った有識者

所属・氏名	分野	ビジョンの方向性
ゆるっとナ☆ガーデナーズ 永村 裕子	都市緑化	方向性 1
株式会社 Shirakawa Banks (白川夜市) ジェイソン・モーガン	地域の魅力 ・賑わい	方向性 2
くまもとデジタルサポートセンター 吉山 壽一	ICT	方向性 4
早川倉庫 早川 祐三	城下町・歴史 保全	方向性 1
城見町全栄会 会長 南 良輔	商店街	方向性 2
熊本市国際交流事業団 勝谷 知美	国際・多様性	方向性 2
NPO法人ソナエトコ 高智穂 さくら	防災・防犯	方向性 3
水まち水前寺実行委員会 会長 吉本 祐之	地域の魅力 ・賑わい	方向性 2
東海大学 准教授 安部 美和	防災	方向性 3
ささえりあ帯山 芹川 真寿美	高齢者福祉	方向性 4
熊本市障がい者相談支援センター 大関 宏治、園田 亮吉	障がい者福祉	方向性 4
子育て支援ネットワーク 井澤 美紀	こども	方向性 4
熊本大学ボランティアサークル学生	未来	方向性1-4



8-② 有識者インタビュー結果

方向性1 “きらり”とひかる品格たどようまちをつくる

- ・好きな時に参加したい人が参加する“ゆるい”スタイルで、行政の事業などに参加できる柔軟性が必要
- ・城下町の町割や古い町屋の趣を生かした魅力あるまちづくりには、古い建物をまちの財産として利活用しやすくする法の仕組みが重要



方向性2 “わくわく”があふれる活力と賑わいのあるまちをつくる

- ・素晴らしい取り組みをしている個々の地域同士がつながることで熊本市全体が盛り上がる
- ・外国人が地域に入りやすい環境をつくり、一緒に地域づくりをすることで更なる発展につながる
- ・公共スペースをもっと簡単に使用できるシステムが必要
- ・地域の人たちのニーズを掘り起こし、向き合うことがまちの魅力アップにつながり、エリア全体の価値を高めていく



方向性3 “ほっと”できる安全で安心なまちをつくる

- ・防災を「非日常」ではなく「日常」にしていくことが鍵であり、そのためにこどもは重要な存在
- ・幅広い世代の各個人のできることと必要な支援をマッチングさせる場所が必要
- ・地域活動へのイメージ改善、参加へのインセンティブ付与等行政の支援が必要



方向性4 “いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

- ・コロナ禍で希薄になったつながりを再構築し、地域のネットワークづくりが必要
- ・元気なうちから地域とつながり続けるシステム、地域と行政の顔の見える関係での信頼関係、学校、企業、福祉、医療の連携が必要
- ・デジタルに関する高齢者への支援を行い、災害時に高齢者を取り残さないようにしたい
- ・地域でのコミュニケーションを大切にし、障がいの有無に関係なくお互いさまのまちづくりをしたい



■取組の成果

【成果が見られた項目】

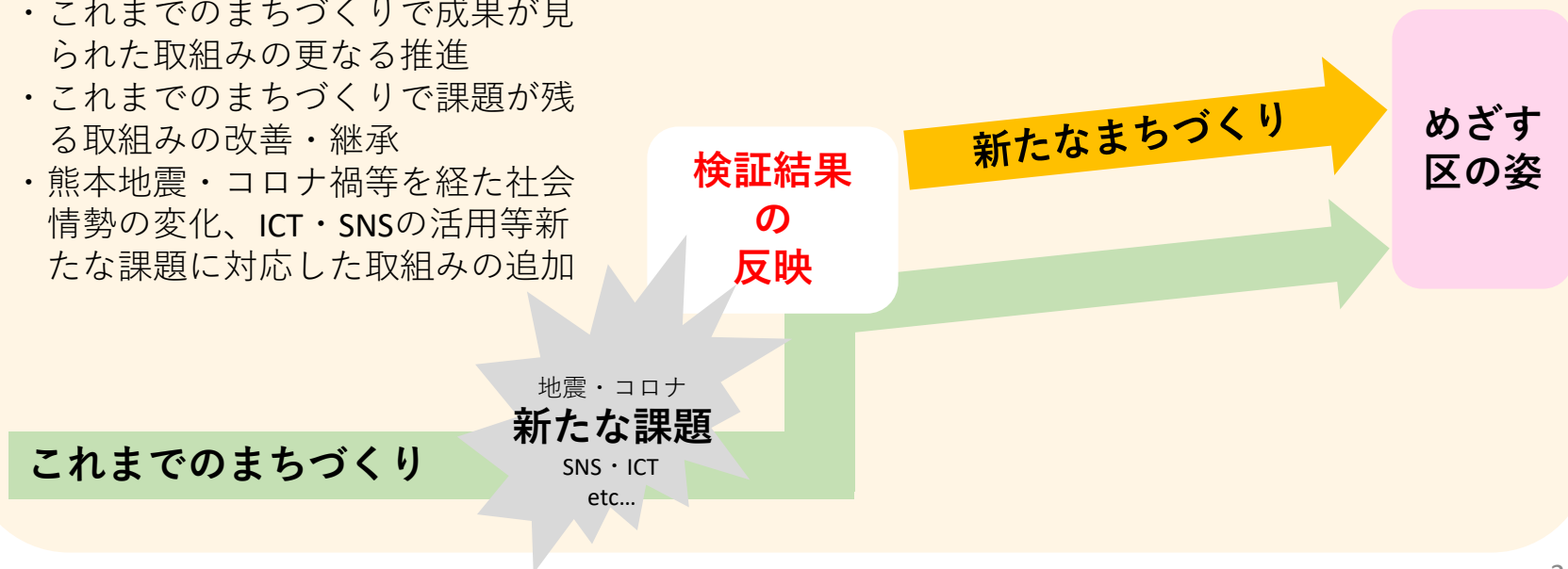
- ・現ビジョン策定時に最も気がかりなこととして挙げられていた「**災害に強いまちづくり**」の満足度は高くなっており、防災講座の開催等の地域の防災活動への支援は大きな成果が見られた。
- ・「**景観・環境**」への満足度は高いことから、街並みづくりへの助成、地域の魅力を発信する事業等は一定の成果が見られた。

【課題が残る項目】

- ・「**商店街の賑わい**」は、現ビジョン策定時は、中央区の誇りとして挙げられていたが、熊本地震及びコロナ禍の影響を強く受け、満足度が低くなっている。
- ・「**地域のつながり**」は、コロナ禍の影響、マンションの新規建設等の影響が大きく課題が残る。
- ・「**道路、交通問題等**」は、引き続き不満が多く、継続的な対策が求められる。

■今後のまちづくりの方向性

- ・これまでのまちづくりで成果が見られた取組みの更なる推進
- ・これまでのまちづくりで課題が残る取組みの改善・継承
- ・熊本地震・コロナ禍等を経た社会情勢の変化、ICT・SNSの活用等新たな課題に対応した取組みの追加



【検証結果資料】

区民アンケート

“中央区まちづくりに関するアンケート結果報告”

https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=44771

まちづくりワークショップ

“中央区まちづくりワークショップ実施報告”

https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=47690

有識者インタビュー

“中央区まちづくり有識者インタビュー実施報告”

https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=48659

(熊本市ホームページ)